

令和7年度 (岩沼高等学園) の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名 (山下 由香)

研究テーマ	生徒一人一人の社会参加と職業的自立を目指した指導支援の在り方 (3年計画) ～自立活動の視点を取り入れた「育てたい力」の指導内容の検討を通して(1年次)～
研究目標	将来の社会参加と職業的自立を目指すために、自立活動の指導の在り方を探り、指導力の向上を図る。
研究内容・方法 研究計画等	本研究を三年間の研究として計画し、今年度は一年目となる。 〔一年次〕 各授業において、自立活動の視点を持った指導を行うため、全ての教員が自立活動の指導内容6項目を意識した授業作りを検討する。そして、一部の授業(専門教科等)において研究授業を計画し、実践の振り返りや指導方法の検討を通して自立活動の指導における全体の指導力向上を目指す。 〔二年次〕 自立活動の指導において、本校の教育と生徒の実態に応じ、将来に必要な力、伸ばしたい力を具体的に絞り、一人一人の自立活動の目標に応じた適切な指導について検討する。また、研究授業等による研修機会の設定や、日頃の指導においてPDCAサイクルによる実践を重ね指導力を高めていく。 〔三年次〕 二年次での取組における成果と課題を検証し、より適切な実践を計画、実践していく。そして、本研究の集大成として、生徒が身に付けた力、成長や変容について、また、教師の指導力向上について適切に評価し三年間のまとめを行う。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	初年度である今年度は以下の3点を柱として研究を進めた。 ① 自立活動の視点を取り入れた授業づくり 各教科の授業において、自立活動の視点を意識し「育てたい力」をどのような題材や場面で指導していくのか、検討し実践を蓄積した。特に専門教科での授業において、自立活動の視点を取り入れた授業を実践した。 ② 実践に生かす指導力の向上を目指した取組 校内授業研究会、専門性向上研修会、指導力向上につなげる各種の研修会を計画し、実践に生かせる研修を充実させるようにした。 ③ 自立活動の指導に関する理解の促進 支援部と連携を図り、指導内容の検討や工夫について、職場実習と関連付けて生徒に必要な力をより具体的に探った。また、生徒の実態や課題に関して教員間で共通理解を図る場を積極的に設け、共通の視点を持って連携して有効な指導を展開した。 『今年度の成果と課題』 本校の特色、また、生徒の実態を踏まえると、本研究の核として掲げる「職業的自立」を目指す上で、自立活動の時間として設定されている時間のみでは、その目標を達成させることは難しい。そこで、あらゆる学習活動の中に自立活動の視点を持ち、生徒の自立活動の目標に迫る指導を展開することを計画した。今年度は自立活動の指導に対する指導者側の考えを一定の方向に定め、各種の活動において、自立活動の視点を持って指導にあたること、そのための環境作りを行うことが研究を進める上での第一歩であると考えた。今年度のまとめとして職員に行った「研究に関するアンケート」の結果から、日常の指導の中で自立活動の指導6項目を意識するようになった教員が確実に増えており、初年度としては、最も重要である本研究の目標に向かうための地盤作りができたものと評価できる。 この成果を受けて次年度は、「視点を持つ、意識を持つ」段階から「実践、実行の充実」へ移行させ、具体的な指導を積極的に展開していく。そして、試行錯誤を重ねながら精度を高め、一歩ずつ目標達成に近付けていく過程であると考え。そのためにも、PDCAサイクルによる取組を計画的に進め、より具体的に研究を進めていく。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。